



特集
1

海洋プラスチック問題の本質をとらえて行動しています

近年、海に大量に流出するプラスチックが世界的な問題となっています。ジャパンビバレッジは、総合飲料食品オペレーター業界のリーディングカンパニーとして、海洋プラスチック問題の現状を把握し、その課題に取り組んでまいります。

海洋プラスチック問題とは？

洋服や家電製品、包装容器など、私たちの生活に欠かせないプラスチック。このプラスチックが自然界に流出した場合、河川などから海へと流れ込みます。*

※参考:WWFジャパンWEBサイト「海洋プラスチック問題について」
McKinsey & Company and Ocean Conservancy(2015)及び
Neufeld,L.,et al.(2016)
Gall & Thompson (2015)



海洋プラスチック



ジャパンビバレッジの認識

海洋プラスチック問題とペットボトル

海洋プラスチック問題では、ペットボトルが海に漂う様子が報道され、これによりペットボトルの利用を控える動きがあります。ただ、問題なのはポイ捨てされ河川や海に流出することであり、ペットボトルそのものに問題があるわけではありません。ペットボトルはきちんと回収されればまた新しいペットボトルに生まれ変わる、資源循環が構築されている貴重な資源です。

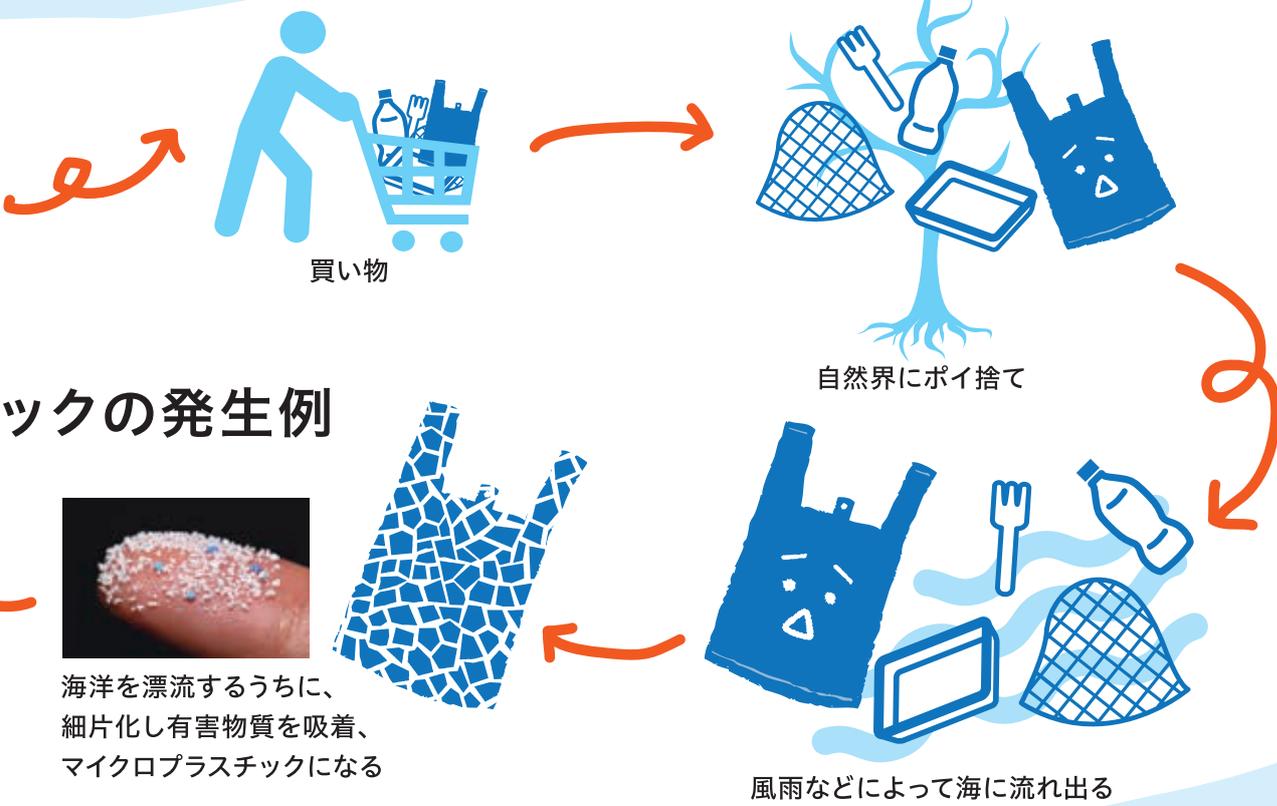


海洋に流出するごみは、海の景観を損ねたり、漁業の支障となったりするのみでなく、海の生態系に大きな影響を与えます。*

また、流出したプラスチックごみは、紫外線などの影響を受けて、小さなプラスチックの粒子となります。5mm以下になったプラスチックは、「マイクロプラスチック」と呼ばれて

いますが、これらは自然分解することなく、長期にわたり自然界に残り続けると考えられています。

生物がマイクロプラスチックを取り込むことでどのような影響を受けるのか、まだ明らかにされていません。しかし様々な影響を考慮すると、早急な対策が必要であることは明らかです。



マイクロプラスチックの発生例



海洋を漂流するうちに、細片化し有害物質を吸着、マイクロプラスチックになる

ジャパンビバレッジの課題

リサイクルボックスに入れられたごみ

海洋プラスチック問題に関して当社が一番に取り組むべき課題は、リサイクルボックスを「ごみ箱」だと思っているお客様が入れるごみ(異物)を無くすことです。その理由は異物がたくさん入れられていたり、ボックスの入口をふさいだりすることによりそのボックス内があふれ、その結果ペットボトルが街や河川そして最終的には海洋に流出してしまうことがあるためです。

これを防ぐためにもリサイクルボックス内の異物削減活動を実施しています。



リサイクルボックス



リサイクルボックスに入れられたごみ(異物)

ジャパンビバレッジのペットボトルリサイクル



飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザ」B

ジャパンビバレッジは自ら飲料空容器の再資源化を行うため「リサイクル・プラザ」Bを設立しました。

ここでのペットボトルの処理は、ペットボトルを選別・圧縮し「べール品」に加工します。このべール品は協栄産業株式会社様へ出荷し、新しいペットボトルに生まれ変わっています。

所在地：埼玉県さいたま市
 設立：2003年5月
 年間処理量：5,490トン
 （2020年度実績）

（ジャパンビバレッジの東京都・埼玉県・千葉県にある22支店が回収した缶、ビン、ペットボトルを処理）



リサイクル・プラザB



手選別ライン

リサイクル・プラザ」Bのペットボトル処理フロー



協栄産業株式会社様

使用済みペットボトルから 飲料用ペットボトルへ

リサイクル・プラザJ Bから出荷されたペットボトルは協栄産業株式会社様にて、また新しいペットボトルに生まれ変わります。



再生プリフォーム (ペットボトルの原型)

世界初「FtoPダイレクトリサイクル」

協栄産業株式会社様は、回収ペットボトルから飲料ボトルを作る従来のプロセスから、工程の一部を省くことで、環境負荷低減と再生効率化を実現する「FtoP (フレークtoプリフォーム)ダイレクトリサイクル技術」を2018年8月に世界で初めてサントリーホールディングス株式会社と共同開発し事業化を行っています。

これにより、従来のプロセスと比較しCO₂排出量を約25%削減しています。



FtoP製造ライン



各地域の リサイクルネットワーク

リサイクル・プラザJ Bがリサイクル処理している東京都・埼玉県・千葉県以外の地域の飲料空容器 (缶・ビン・ペットボトル) は、各地域の企業と連携し、再資源化フローを構築しております。



※主要企業を掲載